

令和6年6月6日

産業厚生委員会

阿久根市議会

1 会議名 産業厚生委員会

2 日時

- (1) 令和6年6月6日(木)
- (2) 開会 午後3時34分
- (3) 散会 午後4時24分

3 場所 第1委員会室

4 出席委員

竹之内 和 満 委員長、大野 雅 子 副委員長、白石 純 一 委員、
大田 基 次 委員、竹原 信 一 委員、牟田 学 委員、
濱田 洋 一 委員

5 事務局職員

局長 新 塘 浩 二、議事係主任 松 林 俊 介

6 説明員

企画推進課

課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長 岩 下 亮 一 君

環境水産課

課 長 園 田 豊 君

水 産 係 長 松 永 雄 輔 君

商工観光課

課 長 宮 下 雅 行 君

課長補佐兼観光推進係長 船 蔵 真 一 君

商 工 振 興 係 長 大川内 広 樹 君

都市建設課

技 監 尾 上 国 男 君

課長補佐兼管理係長 松 下 直 樹 君

都 市 計 画 係 長 宮 路 隆 博 君

7 会議に付した事件

所管事務調査について

8 議事の経過概要

別紙のとおり

審査の経過概要

○ 所管事務調査について

竹之内和満委員長

ただいまから産業厚生委員会を開会します。

初めに、所管事務調査を議題とします。

今後の調査について、所管課を呼び、視察結果をもって質疑を行いたいとのことでしたので、所管課を呼んで質疑を行いたいと思います。

所管課の出席をお願いします。

〔企画調整課、商工観光課、環境水産課及び都市建設課入室〕

企画推進課、商工観光課、環境水産課、都市建設課に出席いただきました。

所管課に質疑を行う前に説明いたします。

産業厚生委員会では、一つ目が観光の振興に関する調査について、二つ目が旧港及び青果市場跡地を含む市街地活性化に関する調査について、三つ目が新道の駅整備に関する調査についての3点を所管事務調査事項として定めています。

このため、1月29日から1月30日にかけて愛媛県の「みなとオアシス八幡浜みなと」と及び宮崎県の「道の駅北川はゆま」に、そして2月6日に熊本県の「ミオ・カミーノあまくさ」等を視察に行き、調査を行いました。

調査実施後、各委員の意見聴取を行ったところ、所管課に対する質疑を行うことと決定しましたので、今回出席していただきました。

それでは、委員から質疑はございませんでしょうか。

白石純一委員

この委員会での行政視察として、先ほど委員長が申した3か所を訪問したわけですが、道の駅である「北川はゆま」を除く八幡浜、四国ですね、そして上天草の松島地区の2か所について、今日、お見えの4課長いずれか、その2つ、双方あるいはいずれかを実際現地で見られたことはございますでしょうか。課長がおられなければ、課長補佐で訪問された方はいらっしゃいますか。

〔「道で松島地区を通ったことはあります」と呼ぶ者あり〕

八幡浜は四国ですので、なかなか遠いと思うんですけども、上天草の松島地区は非常に、今、九州地区でも、インバウンドを含め、入込み客の多いところですよ。

したがって、我々議会として、こういう海を活用した観光、港の旧港を含む旧港エリアの開発について、所管事務で調査をしているということも、もちろんお耳には入っていると思いますので、やはり課長、課長補佐の皆様は、機会があればぜひそういうところをまず見てもらいたいというふうに思います。

我々が見てきたことをここで、もちろんなかなかやはり見てないとですね、ぴんとこないと思います。

そこで質問なんですけれども、八幡浜、ちょっとすいません、私のうろ覚えかもしれませんが、間違ったら皆さん訂正してください。

八幡浜は、市の土地を民間に道の駅として土地を無償で貸し付けて、出資者としての市

を含む民間法人がこの建物を建ててですね、道の駅を建てて運営していると。かなりの観光客のみならず、まちの住民の利用も高いというふうに伺っております。

そして、上天草地区も市の土地を、市の官設民営の建物もあれば、純粹に民設民営の建物もあるのですが、民設民営については市の土地を無償で貸し付けて、しかも長期、例えば30年などの長期で貸し付けて、民間企業が建設し、運営しているというものです。

そうしたものを阿久根の旧港エリアの地区のモデルケースとして考えられるかお伺いしたいと思います。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

まず冒頭に、課長が午後から出張ですので、私が代理で出席をさせていただきます。御了承ください。

青果市場に関する取組、旧港を含めてですね、取組につきましては、先月24日に事業者向けの基本構想に基づく説明会を行ったところです。

今現在、その土地は県の所有でございます、今現在は県と土地の取得に向けて協議中でございます。

基本構想の中では、土地の活用については、今のところ、行政が前面に立った開発といえますか、整備を行う予定とは、確定とはしておらず、民間の事業者向けに説明会を行ったということもありまして、民間活力を導入した施設整備の在り方を、今現在検討しているところです。

先日行った説明会の中では、参加いただいた事業者の中でも複数程度興味をお示しの事業者が出てきましたので、今後につきましては、事業者とも連携しながら、どういった活用がいいのか、県の土地ですので、取得した後、有償での貸付けなのか、無償での貸付けなのか、貸付けの期間はどの程度が事業活動として成り立つのにいいのか、そういったいろんな観点から意見を聞きながら取組を進めていきたいと思っております。

白石純一委員

私も説明会出させてもらいましたけれども、貸付けの期間について、例えば5年というような話が出たかと思うんですが、民間がですね、建物を建てて、それをペイするために運営するとしたら、木造であれば30年、鉄筋コンクリート造であれば50年以上の長期、定期借地権の契約をするのが一般的ではないかと私は考えます。もちろん、そこで借地料については、もちろん借りる方にとっては無償ありがたいし、それぐらいの自治体としてサポートする価値のある場所だと思っております。その辺りについてのお考えを教えてください。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

確かに説明会の中では、5年というのが出てきましたけども、あくまでも説明会の中の5年というのは、指定管理を例にとって説明したところだったんですけども、やはり指定管理の枠組みであると、やはりその事業活動としてはなかなか成り立たない面があるのではないかという点で例を挙げさせてもらったところです。

我々が今考えているのは、やはり委員もおっしゃったように、長期での貸付け、ここを前提に話を進めていこうというふうに考えております。

白石純一委員

青果市場跡地については、県から取得するというのがもう二、三年前から話があるんですけど、なぜ取得にはまだ至っていないんでしょうか。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

これまでの協議の中で、具体的な活用案が示されないとなかなか本格的な議論に入っていかなかったといいますか、活用案を示す中でこの交渉が進めてきたという経緯がございますので、令和5年度で基本構想を策定したという流れになります。

白石純一委員

県は、具体的な使い道を示さないと売却譲渡しないということなんですか。ではないですよ。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

青果市場が閉鎖したのが、平成30年度をもって閉鎖したところでございます。

そのあと令和2年度末まで、主にスポット的な利用、公用車の駐車場であるとか、一時的なイベントで活用してございましたけども、無償でということでの2年間は利用させてもらってましたけども、協議をする中で、やっぱり県としても、やはり財産の有効な活用というそういった観点からですね、売却を視野に入れているということでの話が当時あったところなんです。

無償での利用をお願いした経緯もあるところなんですけども、やはり有効な活用策が示されない中で、そこの協議については一旦不調というか終わらして、返却をした形で、そのあと有効活用策を考えるということで話を進めてきたということになります。

白石純一委員

私の質問は、県から購入するに当たり、次の計画がないと県は交渉に応じなかったわけではないですよという質問です。そうなんですか。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

確かに活用案を示しながらということだったんですけども、やはり県としては、地方公共団体にまず売却を優先することとして話がありましたけども、そこは活用案を示しながら交渉してきたというのが実際の流れになりますので、御理解いただきたいと思います。

園田環境水産課長

今の件に関連しまして、私が平成30年当時は農政課長として青果市場の取扱いをしておりました。

その中で、市場が閉鎖するということで、県のほうにいろいろ当時の企画調整課長と御相談に何度と伺ったわけですが、やはり一定の目的を持って、自治体が地域のために取り扱うのであれば、優先して譲渡は検討したいと。ただし、今、岩下補佐からありましたように、一定の目的がないとすれば、県としてもなかなか財政も厳しい中で、財産を処分する方向も考えたいという話が当時あったところなんです。

白石純一委員

自治体との交渉を優先して、そうでなければ民間も含めて、例えば入札にするとかそういうこともあり得るということをおっしゃりたかったわけですかね。

では、次の質問です。

旧港自体も県の土地と理解しますが、旧港を活用する場合は、やはり県からその旧港の土地自体を譲渡、購入することになるのか、どういった手続になるのか、分かる範囲で教えてください。

園田環境水産課長

御存じのとおり、旧港につきましても県の漁港施設として、現在、北さつま漁協が借り

受けております。占有期間といたしまして、現在は、令和4年4月1日から令和14年3月31日という10年をスパンとして借受けの申請をしているところでございます。

そして、現在はですね、旧港につきましては皆さん御存じですが、漁協としての機能は正直もうそこで動いてはおりません。新港で漁港あるいは北さつま漁協としての機能は発揮されております。ただし、あくまでも漁港という扱いの中で、漁業者が7名、そしてまた仲買業者が2業者、あそこの施設あるいは土地を漁協から借り受けて今活用している状況であります。

ですので、そういう目的としての使い道に倣って、今使用されておりますけど、今後、そういう旧港も含めた開発ということであれば、まずその利用者に御理解いただきながら、今の取扱いをまた別の場所とするような案もお伝えしながら、そして漁協にもその旨を伝えて理解いただいた後、最近では海業という漁港のいろんな機能を発揮させた活用というのも国の事業でございますので、段階を経て有効な活用は見込めるんじゃないかと考えております。

大田基次議員

阿久根市の観光資源としたら、最たるものは阿久根大島だと思うんですね。それが年々減ってきて、昨年度は5,400名ですか。これを倍にでも、2倍でもってしていくのがですよ、阿久根ではもう最も早いと思うんですが、渡航料を小・中学生は無料にして、市民がもっと使いやすい場所にするっていう、そのような考えはございませんか。

宮下商工観光課長

阿久根大島の現状については非常に危機感を持ってまして、今現在、指定管理者と一緒にやってお客さん呼び込むのか、PRを含めて一緒に考えているところです。

渡航料につきましては、7月、8月以外の支出については、今2分の1補助をしているというようなところです。250円ですかね。なので、全額補助するっていうところも一つ案なのかもしれないんですけども、今そういった2分の1補助の制度もございますので、小学生には、例えば遠足で使っていただいたりとか、そういった援助も含めて、まずはやっていきたいなと思っています。

大田基次議員

今ですよ、阿久根で例えばいろんなイベントをするときに、キッチンカーなんていうのも来ますよね。

だから、海開きの日から8月31日までの1番お客さんが来てくれる時期に、そういう方たちを入れて盛り上げていくと。そういうような方法もあると思うんですよ。

昨日、山田議員から一般質問でもありましたけれども、あそこで稼ぐ必要はないんですけども、もっともっと人を呼べるのが、アイデアを出していけばあると思うんですよ。その辺を、どうかよろしく願いいたします。

牟田学委員

商工観光課だと思えますけれども、私たちが上天草を視察をしたのは、一つはグラスボートなんですよ。今、旧港に置いてあるグラスボートですね。あれを何とか活用するという考えは、市にはないんですかね。

竹之内和満委員長

暫時休憩いたします。

(休憩 午後3時54分～午後3時56分)

竹之内和満委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

宮下商工観光課長

今現時点で具体的な計画は、ごめんなさい、ないところです。

[牟田学委員「いいですよ、分かりました」と呼ぶ]

濱田洋一委員

先ほど、岩下課長補佐から青果市場跡地の活用ということで具体的な話をいただいたんですが、例えば、将来的な着地点といいますか、どういうビジョンを描いてどういう方向性でにぎわいがあるところをつくっていきたいかというのは、今の時点でどういうふうに描いていらっしゃるんですか。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

今現在の取組としては、やはり基本構想ができたばかりですので、今これを基に事業者には説明を行いました。

今後、説明、勉強会、視察などを繰り返して事業者を公募していきたいなと思っておりますが、この基本構想に描かれたこのイメージを基に何かできないかなと思っております。

万が一、事業者がどこも現れなかったという場合には、また次の段階で考えていかないといけないと思うんですけども、やはりこの間申し上げておりますとおり、旧港施設と一体となった取組を市としては目指しておりますので、まずその第一歩として、先を取組としてこの青果市場に取り組むということで、今取り組んできてますので、この点に注力をしていきたいと思っております。

濱田洋一委員

基本構想が今できたばかりということで、今後の状況に応じてどうしていったらいいのか、また頑張っていきたいということでしたけれども、やはり基本構想の中でもいろんなプランをですよ、プランA、プランB、プランCとしてますけれども、いろんなパターンを所管課は持っておいていただいて、だから、こうなったからどうしようかじゃなくてですよ、こうなったら次の手はこういうふうに打ってこうと。これでも駄目だったら次の手はこういうふうに行こうというのをですよ、今のうちにイメージしていただいて、最終的な着地点はどこにどういうふうにやりたいと、将来の阿久根の活性化に向けてですね、そこら辺を、大変でしょうけれども、お願いできたらなと要望でございますけどよろしく願います。

大野雅子委員

阿久根の観光っていうのは、本当に今からまだ今どんどん頑張っていってもらわないといけないところだと思うんですけども、私、まだ牛之浜景勝地の道の駅の話、なかなか参加してないのでよく分からないんですけど、そちらのほうは今、各課はどのような形で準備されてるのでしょうか。今の、現在の状態を教えてくださいありがとうございます。

園田環境水産課長

そういう建屋とか、そこについてはちょっと本課ではないんですが、以前から、農産物あるいは水産物を販売するスペースをということで、そういう会議には参加しております。そのためにも、いろんな、今、環境水産課としては、水産物のそういう取扱いをですね、

ブラッシュアップしながら、またそこでうまく物販ができるような体制を検討していきたいと考えております。

大野雅子委員

今、研修に行ったところは、どこも10年がかりでずっといろんなことを、人とみんなまで交流して、どういうまちをつくっていくかっていうのを真剣に考えて、皆さんでいろんな協議をした結果、民間民営で建てたりとか、場所だけ借りてですね、公設民営なった部分があったりとか、そうやって、もう本当、役所の方だけじゃなくて商業関係の人みんな含めて一緒に考えてうまくやっています。

地元の人がまず喜ぶまちじゃないと観光客も来ないんだと、そういうふうにしてまず地元の人に喜ぶにはどんな施設にしたらいいんだろうか。とにかく建物だけ出来たって仕方ないと思うんですね。

牛之浜にしても、すごくすてきなのをいろいろ考えてくださってるんですけど、あそこにはどの業者が入ってどんなことをするんだろうとか、私にはちょっと不安が今ありまして、それにはまず準備をしないといけない。どこも高齢化して、農産物も山下とか有名な野菜を作るところだったんですけども、高齢化で本当にできなくなってきてるんです。今度は、それを次がどんな人が担い手として、それを作っていくか、会社が入るのか、またそういうところも考えないといけないんですね。せつかく道の駅ができて、売るものがないと何にもならない。道の駅だけじゃなくて、本当にまた、そこの青果市場のところに今考えてくださってますね。そこのところに民営が入って、またそれがよければ今度は港のほうも誰かが入りたいということになると思うんですよ。

そうなるときに、漁協からまた権利をいただいて、そこに今度は市場を造るとか、まず上を待たずに下から先に降りる、地元の人でも喜ぶようなものを造って、そこに人が集まることを前提に、そしてまた、高速道路がつながったときには、向こうも良くて、それで下にも来て、番所丘の公園にも遊べると。また阿久根大島にも渡れると。本当全体的に考えていかないといけないなっていうのを今度研修で行って、すごく思いました。

本当に自分たちだけではできないと思うので、本当に民間をみんなと知恵を集めて、いいものにしていけたら希望があるんじゃないかなと思っていますので、大変ですがよろしくお願いします。

大田基次委員

この八幡浜市議会から提供された分、それから延岡市から提供された分、こういう資料っていうのは市の職員方には配ってないんですか。

竹之内和満委員長

配ってない。

大田基次委員

配ってないんですか。とてもいい資料だから配られたらいいと思いますけれども。

白石純一委員

道の駅に関してですけれども、これは議会でも以前申したんですけれども、水俣から出水の高速は早ければ4年ほどで開通するのではないかとと言われております。

そうすると、出水の道の駅もそれぐらいのスパンでオープンすると思われます。その出水市の道の駅は、当然阿久根市の最も強い競合相手になるわけですから、出水市の道の駅の概要、オープン時期等は把握されておられますか。

尾上都市建設課技監

水俣から出水までの高速道路については、開通時期というのがはっきりまだ決まってない状況です。阿久根、川内よりは当然早いのかなと思ってる程度であります。道の駅もはっきりは、開通に合わせてするのではないかなと思ってるだけで、はっきり出水市からは聞いてはいないです。

白石純一委員

この前の期成会ですか、薩摩川内であった期成会では、小里代議士が早ければ4年で開通するんじゃないかとおっしゃってましたよね。代議士がそんないいかげんなことはおっしゃらないと思います。したがって、4年先だと、当然もう道の駅も大分、計画がなければできないはずなので、あると思います。

その辺は、言われてないから知らないじゃなくて、当然、どういうものか出水市さんが全てつまびらかにしていただけないかもしれないですけども、やはり、同じ、最も競合相手になるわけですから、当然それはですね、商売としてはどういうものができるんだろうかというのは当然知つとかなないと、自分たちの事業計画はできないわけです。

その辺りは、しっかり考えを改めてもらいたいと思います。あまりにも悠長な姿勢ではないかと思わざるを得ません。いかがでしょうか。

尾上都市建設課技監

そこにつきましてはですね、情報を、出水市の状況、道路の開通時期についてまだアナウンスはされてないんですけど、それについてこれからも情報収集を努めていきたいと考えております。

濱田洋一委員

先ほど大野委員から、非常にいいお話がありました。

その中でですね、私も感じてることなんですが、「八幡浜みなと」いうところに視察をさせていただいたときにですね、その資料の中にこういったことが書かれております。事業実施の目的ということで、これはいろんな物産店であったり、いろんな食堂、食べる場所とかですけれども、「八幡浜みなと」を整備した第1の目的は、経済効果を広く生み出すことということですね。そのためには、まず市民を最大の顧客と位置づけ、購買力の市外流出に歯止めをかけ、需要を市内へ呼び戻すことが基本となります。たくさんの方が集まる施設づくりこそ経済効果を生み出す根幹であり、また、市外からの来訪者の増大、フェリー客の利用促進を結ぶ近道であります。

先ほど、大野委員も言われたことですが、孔子の論語の中にもありますとおりのこととで「近き者喜ばば遠き者来る」という言葉があると。

ですから、市民に喜ばれる魅力ある施設づくりを目指しながら、交流人口の拡大や経済効果の助長、さらには様々な産業、そして行政分野の振興とつなげていきたいというふうにありますので、より多くの市民の方々に、やはり主体的に関わっていただくということが非常に大事なことではなかろうかと。

これは皆さんが今やっぴらっしゃる観光振興であったり、各エリアの整備事業であったり、そういうもろもろに通ずることではなかろうかと思っておりますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

竹之内和満委員長

ほかにございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

私も質問をしたいので、大野委員に委員長職務をお願いします。

大野雅子副委員長

それでは暫時、委員長の職務を代行します。

竹之内和満委員

まず、八幡浜なんですけど、人口が3万人ぐらいしかいないんですよ。なのに、この施設の利用者が年間100万人あると。10年で1,000万人を超えたということで、なぜそんなことをしてる、いろいろ話を聞くと、先ほどの濱田委員からもありましたけど、今まで地元で買う場所がなかったそうです。みかんさえ売る場所、買う場所がない。魚でも買う場所がない。それを造ったのが「みなとオアシス八幡浜みなと」であったということです。そのとき2つのコンセプトを設けたそうです。地元市民の購買力を地元に戻すこと。今まで地元で買うところはなかったもんですからそれを戻すことと、市民が集まるような場所にする。この2つなんです。

あそこはとにかく人が集まるんですよ。実際、物を買うかどうかは別にして、産業祭を緑地帯で行うし、花火大会もそこでやるし、クリスマスイベントもそこでやる。そういうふうになんか人が集まるような場所にしてる。この近隣客、年間100万人の六、七割が近隣の客と。当然ですね、そういう人たちはイベントで集めるわけですから。やっぱり、地元の人を買ってこそ長続きするのであって、それに先ほど言った「近き者喜ばば遠き者来る」、近くの人があれば遠くの人もちよっと来てみようかというふうになる、そのような形で持っていくべきだと思うんですけど、どういうコンセプトで、今度の青果市場を造るのか。もしあったら、今の段階であるか分かんないんですけど、あったら教えてください。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

青果市場の活用に関しては、基本構想の中にもですね、コンセプトを掲げております。

この基本構想は、御案内のとおり、専修大学の学生のフィールドワークであったり、市民とのワークショップを通じて策定したものであって、この中で、出された意見をもとに、基本コンセプトも掲げたところであります。

その中では、委員からも御指摘のあったように、みんなが楽しめることができる場所だということ。あと体も心も健康になれる場所だということ。あと、自然と文化を大事にする場所。こういった場所の特性を踏まえてですね、こういったコンセプトを掲げたところでありますので、まさに委員がおっしゃったことと合致する部分でもありますので、この基本構想の、今申し上げた三つのコンセプトを基につくり上げていきたいなと思っております。

竹之内和満委員

そういうふうにあるんですね。とてもいいコンセプトあるということで、ぜひともお願いしたいと思います。

もう一つなんですけど、八幡浜の「みなと」にしても上天草の「ミオ・カミーノあまくさ」にしても、白石委員からもありましたが、行政だけで建物を造ってないんですよ。必ず民間が入って、建物から民が入って、民設民営ですね。

今はそういうふうじゃないとなかなか難しいんじゃないか、お金を行政が全部出してというのはなかなかそれが難しいと思いますので、やっぱり民間を、官民協働という形でやっていくべきだと思うんですけど、それはちょっと先ほど言いましたが、そういう方向で

なるんですかね。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

冒頭、白石委員に申し上げたとおり、今はこの基本構想の中では、民間活力を積極的に導入して、活用整備を図ることとしております。その中で、先ほど申し上げたコンセプトも視野に入れながらつくり上げていきたいというふうに思っております。

竹之内和満委員

分かりました。ぜひともお願いいたします。

もう一つ、お金の話なんですけど、「みなとオアシス八幡港みなと」はですね、事業費は8億3000万円。ただ過疎債とか、合併してますので合併債を使って、市の手出しが大体3割ということをお聞きしました。

それで、上天草市の「ミオ・カミーノあまくさ」は総事業費が5億8000万円。社会資本整備交付金と駐車場の売却でほぼお金を出している。手出しなしという話でございました。

阿久根の場合どういようなお金を使って、どのぐらいの規模でつくる予定なんですか。教えてください、その青果市場跡地。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

今現在は具体的な整備に向けた、その具体的な設計等があるわけではございません。公募をする中で、これから事業者と協議をする中で、どの事業規模になるのかとかですね、あと実際に土地を貸し付けるに当たってのそういった期間とか、そういったことも含めて、今後検討していく中身になるというふうに考えております。

竹之内和満委員

分かりました、今からということですね。できるだけ早くつくっていただけたらと思います。計画の予定はどうなんですか。今年中にある程度の計画になるんですか。構想もちゃんとした計画なんですか。

岩下企画推進課長補佐兼企画政策係長兼統計調査係長

先月の説明会でも申し上げたんですけども、年内をめどに、11月ぐらいまでをめどにですね、事業者への説明、あと興味を示していただいた事業者との協議であったりとかですね、その作業を通じて実際の事業提案の募集要項を作っていくというふうに思っております。

県との土地の取得に向けた協議が大体年内でめどがつくというふうに、今スケジュールを立ててますので、それを踏まえて11月は設定したところでありまして、年内から年明けの1月ぐらいまで、おおむね3月程度を公募期間として募集をかけて、年度末にはプレゼンによる事業者の決定をしたいと、そういった作業を進めていきたいと思っております。

〔竹之内和満委員「了解しました」と呼ぶ〕

大野雅子副委員長

それでは、委員長職務を交代します。

竹之内和満委員長

言い忘れたこと、聞きたいことはないですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

なければ、以上で所管課への質疑を終結いたします。

所管課は退室してください。

〔企画調整課、商工観光課、環境水産課及び都市建設課退室〕

この際暫時休憩いたします。

(休憩 午後4時16分～午後4時17分)

竹之内和満委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開します。

今後の所管事務調査について、委員の皆様の御意見を伺います。

今のところ、観光の振興について、旧港及び青果市場跡地を含む市街地活性化について、新道の駅の整備について、3項目ありましたが、今後、どうするかということの御意見を。

[牟田学委員「1つ、ちょっと今」と呼ぶ]

3つだった。

[牟田学委員「それは3つなんだけど、次のやつがなんか1つ」と呼ぶ]

[発言する者あり]

どうですか、御意見をお伺いいたします。

[発言する者あり]

暫時休憩いたします。

(休憩 午後4時17分～午後4時21分)

竹之内和満委員長

休憩前に引き続き、委員会を再開いたします。

今後の調査について、委員の皆様の御意見をお伺いいたします。

白石純一委員

三つの柱を設けておりますが、まず一つ目の観光振興につきましては、議会でも大変熱い議論になっております。

番所丘ですとか、阿久根大島ですとか、脇本海岸ですとか、長島町との対比であるとか、まだ課題が大変多いと思いますので、観光振興についてもまだまだ我々も勉強しながら、行政もチェックしていかなきゃいけないのかなと思います。

また、二つ目の柱、旧港、青果市場の開発についても、青果市場跡地の開発はこの1年をかけて具体的な計画を立てるという行政の方針のようですので、そこについても我々も一緒に勉強し、チェックしていかなきゃいけない。

また新道の駅についても、出水がいち早く、恐らくできるであろう道の駅の様子も十分に勉強しながら、果たして阿久根にどういう道の駅が必要なのか、あるいは、先ほど委員からあったように、まずその旧港等を優先すべきじゃないかという意見もありました。

そうしたことも含めて、まだまだ研究する課題はあると思いますので、この3つの柱については引き続き、課題として残していきたいと私は思います。

濱田洋一委員

ただいま白石委員からありましたとおり、私もこの大きな3つの柱というのがあります。

そういった中におきまして、今後も、やはり、いろんな意味で取り組んでいかなきゃいけないというふうに考えておりますので、さらに、この三本柱ということで、調査ができたらと思いますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

竹之内和満委員長

よろしいでしょうか。

〔大田基次委員「その他でいいの」と呼ぶ〕

その他と言うと。これに関してですよね。

大田基次委員

先ほど申し上げたですよ、この宮崎の資料とか、それから四国の資料、これ、延岡のこの高木社長の資料はですね、簡単に見れないんです、正直言って。そのぐらい貴重なものだと思います。ぜひ、今日見えた、各課の代表の方たちにはですよ、この資料を分けてあげたらいいと思います。なかなかこれ本当にすごいことを書いてあると思います。

すいません、その他でした。

竹之内和満委員長

指定管理料ゼロを目指すという変わった人ですね。

それでは、皆さんの意見をお聞きしました。

所管事務調査については、調査を継続するという事によろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

継続するという事になりました。

次回、調査方法について委員の皆様にご意見を伺いますので、そのときにはよろしくお願いたします。

以上で、本日の産業厚生委員会を散会いたします。

(散会 午後4時24分)

産業厚生委員会委員長 竹之内 和 満